

学校運営協議会委員のみた 荻中

道徳授業地区公開講座 「いのち」の教育を聞いて

平成24年6月16日、1年生の教室で行なわれた「いのち」の教育。講師は久我山にある久我寺の若きご住職、立入聖堂氏であった。

パネルを皆に示しながら話を進めて行く。「人を好きになったことがありますか」と生徒たちが一番輝く話から切り出した。また、「好きだと言ったことがありますか」。グループに別れて熟議方式で話が交わされる。とても楽しそう。聖堂氏は「若い時に悩むことは大変大事なことだ」とまた、「生きることは悩むことだ」と力説する。生徒たちの心に悩むことの大切さを語っておられた聖堂氏の情熱に心打たれました。

猪鼻 徳壽 委員

荻中フェスタ 平成24年12月1日 荻中生の頼もしい姿に感動！

地域教育連絡協議会主催のこの事業は、中学生の社会参画と地域での異年齢交流を主な目的として行っています。

今年度の荻中フェスタは、生徒会役員を中心に、各部活動の部員・中学生レスキュー隊・生徒有志等、100名の荻中生が参加。約2か月前から準備をして、当日は井荻小・桃三小・桃四小・松庵小から訪れた児童たちを、舞台発表やゲームツアーで楽しませました。小学生は優しい中学生に囲まれ、本当に嬉しそうで、お手伝いした大人も、中学生の頼もしい姿を見ることができた一日でした。

荻中生の社会力・自立力を養うのに最適な荻中フェスタ、ぜひたくさんのおみなさんに来ていただき、荻中生の素晴らしさを見ていただきたいと思います。

清水 由美子 委員

学芸発表会 平成24年10月13日 学芸発表会を見て！

音楽室や教室での学級練習や体育館でのリハーサルから本番当日まで、追いかけて拝見してみました。先生方のご指導の賜物ではあるにしても、これが素晴らしくどんどん上達していく。歌もダンスも生徒たちが意欲的に考え意見を出し合い、リーダーの元にまとまって完成に近づいていく。ステキな光景でした。

今年はダンスも加わったせいかとても明るくて楽しい発表会でした。

練習の成果を出しきった生徒たちの「歓喜と涙」。しっかりと胸に刻みました。

石井 喜文 委員

部活動 「部活動に関わって」

荻中は、文化部、運動部等々、各々顧問の先生方の大変熱心な指導のもと、生徒たちは皆、頑張っています。

私は長年、剣道部に携わり、勝ち負けよりも基本重視で指導してきました。中学生たちは皆、初段、二段と有段者となって卒業していきますが、卒業後も読けられる様、荻剣道会を発足、杉剣連に承認され、軌道に乗ってきました。OBたちも三段、四段と次々昇段し、剣道部の強力なバックアップとなり、礼儀作法、その他いろいろな面で指導して居ります。

今後とも、後進のためにできる限り力を尽くしたいと考えています。

青木 千代子 委員

授業風景 体育の授業を見学して

3年生の男女が、各2時間プロの舞踊家のMITSUKOさんにご指導頂く授業が「NPO法人子ども文化NPO M・A・T」のコーディネートにより実現しました。

私は女子の授業を見学しました。まず、ダンスの基本レッスンから始まりました。講師の柔軟な身体の使い方を「みようみまね」でトライする生徒たちの姿と各クラスの創作ダンスの振り付けに対する講師のアドバイスを聞く生徒たちの真剣なまなざしが印象的でした。

金子 敦子 委員

杉並区立荻窪中学校

学校運営協議会だより

Vol. 4

平成25年3月11日 荻窪中学校学校運営協議会発行

『いいまちはいい学校をつくる』『学校づくりはまちづくり』

徳田 達介 会長

これは杉並区が策定した「杉並教育ビジョン」の基本的な考え方です。

荻窪中学校には、「学校運営協議会」が置かれています。この協議会が設置されている学校は「地域運営学校(コミュニティ・スクール)」と呼ばれています。

杉並区には種々の地域が見受けられます。それぞれの地域にふさわしい学校でありたいと願い、地域住民の方々が学校運営に参画し、より良い荻窪中学校となるよう活動を続けています。

学校運営協議会の役割・権限は法律や規則で次のように定められています。

- 1) 教育課程の編成等の学校運営の基本方針について承認を行うこと。
 - 2) 学校運営に関して学校や教育委員会へ意見を述べるができること。
 - 3) 教職員の任用に関して、人事権を有する教育委員会に意見を述べるができること。
- の3点です。

荻窪中学校から巣立っていった卒業生は13,000人を超えました。その多くの卒業生にとって、荻窪中学校は母校であり、心の故郷でもあります。

今、世の中は大きく変わりつつあります。次の世代を担う中学生が、どんな時代の変遷にも対応できるように育てほしいと願いながら、委員一同チームワークを組み合わせながら力を尽くしています。

『いいまちはいい学校をつくる』『学校づくりはまちづくり』ご協力をお願いいたします。

荻窪中学校長 小松崎 浩

今、子どもたちに堂々と夢を語る大人はいるでしょうか。現代の世の中は先行き不透明で夢をもちにくい時代といわれています。しかし、だからこそ、今、地域の大人が夢をもって、次代を担う子どもたちの成長にかかわっていかねばならないのではないのでしょうか。まず大人が大いに夢を語る世の中を創っていききたいものです。

さて、今年度策定された杉並区教育ビジョン2012の基本目標は「共に学び、共に支え、共に創る杉並の教育」です。また、目指す人間像の中に、地域とかかわりの大切さも述べられています。この教育ビジョンの具現化に至る取り組みは、正にコミュニティスクールの今後の方向性と合致するものです。この地で学ぶ中学生にとっては地域そのものが学校です。ですから、子どもが夢を育める地域とするために、地域の教育活動の中心の一つとなるコミュニティスクールの役割には大きなものがあります。学校の教職員は地域の一員でもあるという立場を意識し、また、委員となられている地域の方々には学校の一員でもあるという立場をさらに意識していただき、共に日々の学校運営にあたってまいりたいと考えています。子どもたちの健全な育成を考えますと、社会的にも多くの課題がありますが、だからこそ、今後、コミュニティスクールの存在意義は高まっていくのではないのでしょうか。

今年度、皆様からいただきました御理解、御協力に感謝いたします。ありがとうございました。来年度も荻窪中学校はコミュニティスクールとして地域に夢を広げられる活動を推進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

学校運営協議会(CS)委員の活動

荻窪中学校がCS(コミュニティスクール)指定校になって3年が過ぎました。現在、少しずつ活動の基盤を作っているところですが、CS委員の活動がまだあまり知られていないので、会議で話し合っていることや、活動していることをまとめてみました。

★PTA、学校支援委員会との交流

去る6月9日に、学校運営協議会の発信でPTA、学校支援委員会(おぎすけ)との交流会を開催しました。ワークショップ形式で「荻窪中学校の良いところ」を出し合いながら、交流をはかりました。(詳しくは「学校運営協議会だよりVol.13」に掲載)

★教員との意見交換

第5回の協議会終了後に、教職員とCS委員との意見交換会を実施しました。自己紹介の後、4グループに分かれ、ワークショップ形式で、荻中生の「強み」と「弱み」を出し合いました。

★平成25年度要望について(施設要望)

7月の協議会の前に、委員全員で学校内の施設点検を行いました。その結果を踏まえながら、校舎の段差のバリアフリー化や校庭の人工芝生など六つの施設の改善要望を提出しました。

★教職員の任用に関する意見

学校運営協議会の役割の一つに「学校の教職員の任用に関する事項について、任命権者(教育委員会)に対して意見を述べるができること」があります。学校の運営方針に基づいて、次年度の荻窪中学校に必要な教職員の人数や人材について話し合い、教育委員会に意見書を提出しました。

(文責 宮 浩子 委員)

「学校運営協議会」は、原則公開ですので、どなたでも傍聴することができます。傍聴を希望する場合は、事前に必ず事務局(荻窪中学校)までご連絡ください。

学校運営協議会議事一覧

協議事項	月日	報告事項
・年間予定 ・PTA、学校支援委員会	第一回 4/25	・教職員、協議会委員紹介 ・協議会予算 ・各学年から ・協議会予算 等
★PTA、学校支援委員会との交流 ・学校運営協議会だより(第3号)の発行	第二回 5/31	・協議会予算 ○道徳授業地区公開講座 ・土曜日学校 等
・「地域とともにある学校づくり」推進協議会への参加 ・学校運営協議会だより(第3号)の発行	第三回 6/27	・部活動及び標準服 ・PTA、学校支援委員会との交流 ・道徳授業地区公開講座 等
・学校運営協議会だより(第3号)の発行 ・教員との意見交換	第四回 7/25	・施設点検 ・生徒の状況 ・メール配信 ・部活動及び標準服
・学校運営協議会だより(第3号)の発行 ★教員との意見交換	第五回 8/29	・「地域とともにある学校づくり」推進協議会報告 ・学校公開、学校説明会 ・修学旅行、学芸発表会
★平成25年度要望(施設改善) ・教職員の任用に関する意見	第六回 9/26	・学校公開、学校説明会 ・修学旅行 ・部活動及び標準服
★教職員の任用に関する意見	第七回 10/31	・学芸発表会 ・学校希望制度の申請状況
・荻中こよみ ・学校運営協議会だより(第4号)の発行 ・研修会	第八回 11/28	・学芸発表会 ・校外学習(2年) ・「地域とともにある学校づくり」推進協議会報告
・荻中こよみ ・学校運営協議会だより(第4号)の発行 ・研修会	第九回 12/19	○荻中フェスタ等 ・「地域とともにある学校づくり」推進協議会報告
・荻中こよみ ・学校運営協議会だより(第4号)の発行 ・研修会	第十回 1/30	・学校評価 ・菅平スキー移動教室 ・学校公開及び新入生保護者会 ・平成25年度要望(回答)
・平成25年度学校経営方針、教育課程 ・荻中こよみ ・学校運営協議会だより(第4号)の発行 等	第十一回 2/27	・学校公開及び新入生保護者会
・平成25年度学校経営方針、教育課程 ・荻中こよみ 等	第十二回 3/11(予定)	・進路状況

「地域とともにある学校づくり」推進協議会報告

福島会場(平成24年11月15日)

雨田 英一 委員

いわき芸術文化交流館で、「地域とともにある学校づくり」推進協議会が開催され参加しました。参加者は280余名、いわき市の教育委員会関係や教員が目立ちました。

布村氏(文科省)の挨拶がこの会の内容と方向性を示していました。東日本大震災の被災者への哀悼・見舞いの後、く地域の復興を果たし、未来を担う子どもを育てるためには、地域社会全体がこれまで以上に経験と知見を集約してゆかねばならない。学校運営協議会は、この課題に向けて、学校と地域との連携を強化し、学校を拠点とした復興の役割を担うものでありたい。>と強調しました。続いて、「地域とともにある学校づくり」をテーマとしてパネル・ディスカッションがおこなわれました。荻窪中学校運営協議会と共通する背景をもった議論として、「新しい公共型」学校の創造を目指した活動が目されました。校長のリーダーシップ、PTA活動との関係、取り上げるべき地域のニーズ、地域の教育力を見きわめる必要性、継続性・持続性の方途、等々について実践報告がありました。次に参加した分科会「地域との連携による学校運営の充実」では、復興に向けたいわき市教育委員会の、災害対応型体験型学習プログラムに基づいた活動などが紹介されました。関心の強かった放射線教育について、項目は挙げられましたが、具体的な報告・説明はありませんでした。質疑応答では、地域社会のゲストやボランティアと教員とのあるべき関係が大きく取り上げられ、予め定められた教育内容に即して教員が依頼し、授業のねらいを明確にすることの必要性が強調されました。

東京会場(平成24年12月4日)

猪鼻 徳壽 委員

このような勉強会に出席するのは本当に久しぶりの感があります。テーマである「地域とともにある学校づくり」の対談から始まりました。この中で語られた内容よりも慶応義塾大学、金子教授の提唱しておられた「熟議」という会議の進め方に新鮮で深い興味をもちました。いろいろな検討したうえで導入を考えたいと思います。

昼食後からは2つの分科会に別れ、私と宮委員は第1分科会の「コミュニティ・スクールの具体的な導入の在り方・充実に向けた方策」に参加。事例発表として山梨県甲斐市と三鷹市の両教育委員会の発表がありました。話をお聞きする限りでは具体的という割には少々具体性に欠けており、いまひとつ伝わらない。話を聞いて増々分からなくなってきたのは「地域」と言葉の定義です。質問させていただきましたが玉川大学の小松教授はその「地域」という言葉の内容は「地域」によって異なっており非常にむずかしいというお答えでした。もう一度、我々にとってもこの「地域」の意味の検討は必要ではないのかと思いました。

第2分科会報告

金子 敦子 委員

大貫小学校は、防災教育の視点から「命を守る教育」の充実を図る為の実践の一つとして、避難マップを作成。地域との関わりを通して、学校の中だけでは分からなかったことまで調査。地域を深く理解し、防災という視点が地域とともに生きていく「大貫っ子」の心を育てることができました。地域の連携の重要性を感じました。